

実践7

芸術「美術Ⅰ」

1 学年

科目の目標 (3)	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--------------	--

題材名 絵画 「幸せとを感じる形や色を表そう」～未来への希望～

題材の 評価 規準	観点	生徒の姿	主な評価方法・材料
	【知】	<p>知 形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表す。</p>	ワークシート アイディアスケッチ 「未来課題」
	【思】	<p>発 自他のよさを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	アイディアスケッチ 「未来課題」 鑑賞シート 振り返りシート
	【態】	<p>表 主体的に自他のよさを認め、他者と共同して感じ取ったこと考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい主題について考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>	行動観察、発言、 「未来課題」 鑑賞シート 振り返りシート

「学びに向かう力」育成に向けた本題材における「未来課題」

「未来課題」	あなたは環境デザイナーです。未来を想像する壁画作品を制作し、展示する空間を利活用しながら、未来について語り合える環境を作ろう。	
本質的な問い	「幸せとを感じる形や色とは何か」	
6 要 素	①目的	自己を見つめ感じ取ったことや夢や想像などを基にした表現の創造活動に主体的に取り組み、作品を介して互いにコミュニケーションを活発にし、空間や環境の改善を図る。
	②役割	環境デザイナー
	③相手	全校生徒
	④状況	壁画を通じたコミュニケーション、語り合う場づくり、環境の改善
	⑤作品	壁画
	⑥評価	【知】【思】【態】評価基準(ルーブリック)で評価(後掲)

【指導と評価の計画】(全8時間)

○指導に生かす評価

◎記録に残す評価

授業の 展開	学 習 活 動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
導入 (つかむ) 1・2時	<p>1. [鑑賞] 造形的な視点を基に、表現の工夫のポイントに気付く。</p> <p>2. [発想・構想を練る] 主題を生成しアイディアスケッチをする。</p>	○知 ◎知	○発	○鑑 ○表	ワークシート 振り返りシート アイディアスケッチ
展開 (深める) 3～6時	<p>3. [図案] グループで検討する。</p> <p>4. [下絵描き] 図案を基に描く。</p> <p>5. [意見交流] 「役割」や造形的な視点で制作途中の作品を鑑賞する。</p> <p>6. [制作] 「役割」の視点から主題について、さらに追究する。</p>	○技 ○技	◎発 ○鑑	◎表 ◎鑑 ○表	アイディアスケッチ ワークシート 「未来課題」 鑑賞シート 振り返りシート
まとめ 7・8時	<p>7. [作品完成]</p> <p>8. [相互鑑賞] 作品のよさや美しさ、表現の工夫を読み取る。</p>	◎技 ○知	◎発 ◎鑑	◎表 ◎鑑	「未来課題」 鑑賞シート 振り返りシート

【授業の実際】

第1・2時 導入(つかむ)

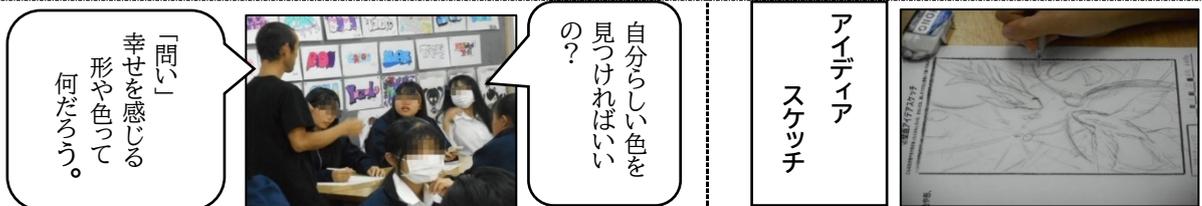
1.〔鑑賞〕造形的な視点を基に、表現の工夫のポイントに気付く。
 (「壁画」の魅力について表現者の思いが何か、表現の意図や工夫は何か。創造する喜びを伝える。ICT活用)



住む町や人達を元気にしたい

作者の思いって何だろう？

2.〔発想・構想を練る〕アイデアスケッチを行い主題を生成する。
 (未来に視点をおき、自らの「役割」を意識し、主題を生み出すために感じ取ったことや考えたことを基にアイデアスケッチする。机間指導において、気になる生徒へ助言する。)



「問い」
幸せを感じる形や色って何だろう。

自分らしい色を見つけてほしいの？

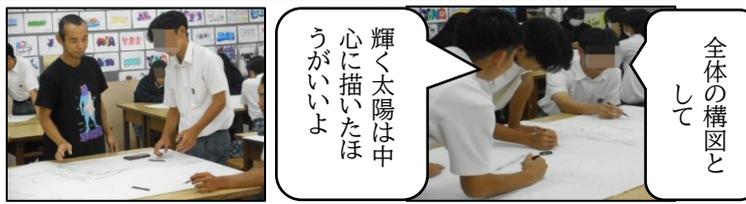
アイデア
スケッチ

第3・4・5・6時 展開(深める)

3.〔図案〕グループで検討する。
 (「役割」を意識し、何を表したいのか主題を決めていく。)



4.〔下絵描き〕図案を基に描く。
 (机間指導において「気になる生徒」に図案から表現者の強い思いを「問い」かけながら、関心を持たせる。)



輝く太陽は中心に描いたほうがいいよ

全体の構図として

5.〔意見交流〕「役割」や造形的な視点で制作途中の作品を鑑賞する。
 (主題を基に、各グループの作品の思いや表現意図などを確認し、他者からのアドバイスやコメント、感想から自作品の図案の練り直しする。※グループ内で「表現の工夫」について話し合いから気付かせる。)



一番意識して表したいことは、動物と色合いです。

この組み合わせはどんな？

6.〔制作〕「役割」の視点から主題について、さらに追究する。
 (机間指導にて「気になるグループ」に図案のよさを伝え、さらに工夫できる部分や作品から伝えたい内容をどう表すのかを「問い」かけながら、表現の工夫を促す。)



全体的に明るい雰囲気を出したいね

自分たちの1番のこだわりは何か

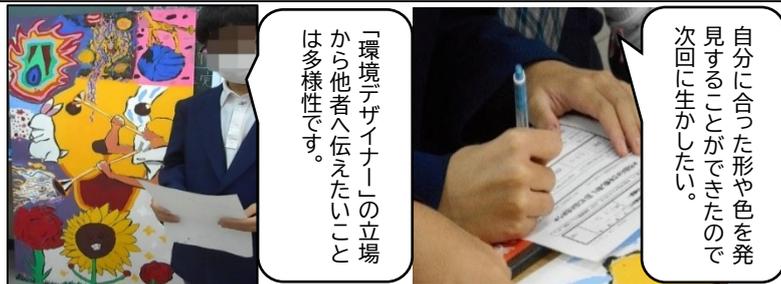
第7・8時 まとめ

7.〔作品完成〕
 (「主題」を追求した表現に迫る。)



ここは、もっと色を濃くしたらよくない？

8.〔相互鑑賞〕作品のよさや美しさ、表現の工夫を読み取る。
 (生活の中の美術の働きに気づかせる。)



「環境デザイナー」の立場から他者へ伝えたいことは多様性です。

自分に合った形や色を発見することができたので次回に生かしたい。

「未来課題」の実際

「未来課題」に取り組むにあたり、学習過程における壁画制作から「環境デザイナー」という役割を設定した。主題を生成し「何を表したいのか」「どういう思いで表現しようとしているのか」といった強く表したいことを心の中に思い描きながら共同で制作した。このことで、主体的に粘り強く取り組む原動力となり、さらに自分の考えを他者に伝え合ったり、創造的な発想や構想を練る大切なポイントにもつながった。

【ワークシート】

題材：壁画制作 テーマ「幸せを感じる形や色を表そう」
～未来への希望～

①壁画のアイデアを考えよう。
幸せな生き物、動物、花や植物、模様、文字、色や形、思い浮かんだものを書き出してみよう。

②壁画アイデアスケッチ

題材名		名前		年 組 番	
日 時	授業回数	本時の作業目標や内容を書く 本時の作業の態度目標を書く	振り返り(できたこと・気づき・ 考えの変化など)	先生印	
月 日 校時	回目				
月 日 校時	回目				
月 日 校時	回目				
月 日 校時	回目				
月 日 校時	回目				

単元題材終了時に、この作品を制作するにあたり「工夫したところ」を書きましょう。

「役割」を意識し、共同で作品を表現したことで、どのような考えや思いが変化しましたか。

令和 年 月 日 ()

鑑賞シート	幸せを感じる形や色を表そう ～未来への希望～	年 組 番 姓	
		氏名	/ABC

目標：鑑賞活動を通して、自他の作品のよさに気づき、自分の 価値意識をもって批評し合う。

☆作品のよさを感じ取り、互いに伝え合おう☆

【グループ】友人の作品を評価してみましょう。 ※3つの視点で、よかったら□に✓する。

グループ名			
【Good Job!】	作品の魅力を感じる □	作品のよさが伝わった □	表現の意図と工夫がある □
評価	A・B・C	感想	
グループ名			
【Good Job!】	作品の魅力を感じる □	作品のよさが伝わった □	表現の意図と工夫がある □
評価	A・B・C	感想	
グループ名			
【Good Job!】	作品の魅力を感じる □	作品のよさが伝わった □	表現の意図と工夫がある □
評価	A・B・C	感想	

☆最後に鑑賞会を通して、あなたが感じたことや気づいたこと、思ったことなどを書いて下さい。

美術担当サイン

「未来課題」に関する鑑賞シート、振り返りシートに対する【知】【思】【態】の評価基準(ルーブリック)

	「知識及び技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
A	<p>知：構図や色彩などがもたらす効果を多様な視点で理解したり、幅広い視野に立って造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技：目的や意図に応じて多様な視点から用具等の特性を効果的に生かすとともに表現方法について試行錯誤を重ねて創意工夫し、主題をあらゆる可能性から追求して創造的に表している。</p>	<p>発：夢や想像などから主題を生成し、よりよく表現形式の特性を生かし、知識を効果的に活用しながら幅広く形や色、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑：多様な視点に立って、知識を効果的に活用しながら表現者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて自分としての根拠をもちながら関連付けて、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表：より主体的に主題について試行錯誤を重ね、創意工夫したりして粘り強く創造的に表そうとしている。</p> <p>態鑑：より主体的に作品について作者の意図や工夫、心情などを幅広く考え粘り強く見方や感じ方を深めようとしている。</p>
B	<p>知：構図や色彩などがもたらす効果や造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技：目的や意図に応じて絵の具の特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して表している。</p>	<p>発：夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形や色、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑：造形的なよさや美しさを感じ取り、表現者の意図と表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。</p>	<p>態表：主体的に主題について自他のよさを生かし、他者と共同して表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑：主体的に作品について造形的な見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとしている。</p>
C	(Bを満たしていない)		

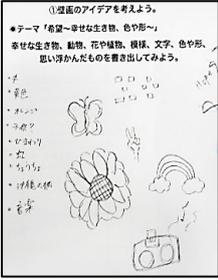
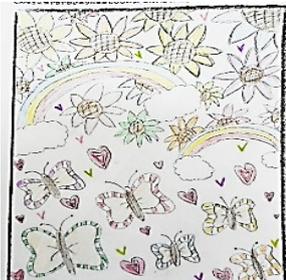
【第3時のワークシート(アイディアスケッチ)の記述】

(記述回答は原文のまま)

[生徒a] 幸せな絵を作るにはどうしたらよいかとか考えたり、模様をいっぱい描いたりしようと思う。
[生徒b] 細かなところまで、アイディアを出すことはできたけど表現するまでできなかったから、もっと分かるようにしたい。

【第5時のワークシート(鑑賞後の振り返り)の記述】

(記述回答は原文のまま)

	生徒の記述	評価A〔生徒c〕のアイディアスケッチ
評価A	[生徒c] 最初は 幸せな絵をつくるには、どうしたらよいかとか考えたり、模様をいくつか描いてみた。そして、グループの人たちからどんな絵を描くのか話合い、その後、下絵ができた。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【最初の考え】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【他者からのアドバイス後の考え】</p>  </div> </div>
評価B	[生徒d] みんなで協力して、イラストをつくることができました。 [生徒e] 絵に合った色使いで色をぬる。	

【第5時の鑑賞シートの記述】

(記述回答は原文のまま)

評価A	[生徒f] 例えば多様性を意識していたり、一つのことに着目して絵で伝えていてどのグループもいいと思った。また役割を意識して気づいたことは、互いの協調性が大切だということです。次につながることは、グループ活動で全員が役割を意識して行動することが大切だとわかった。
評価B	[生徒g] 他のグループの作品を鑑賞して、たくさんのアイディアをもらった。そのおかげで色塗りも進んだ。 [生徒h] みんなのアドバイスから互いのアイディアを組み合わせることができ嬉しかったし、楽しかった。

【第8時のワークシート(振り返り)の記述】

(記述回答は原文のまま)

評価A	[生徒i] 周りの人と空間を把握しながら描いたことでグループで活動する時に自分の役割だけでなく、交流して互いに協調することも必要だと気づいた。相手が考えたことを理解し、共感していくことで自分の引き出しや知見が増えることで自分も成長していくんだなと思った。
評価B	[生徒j] 色づかいやテーマを決めることで、印象が180度変わってくるし、全部の作品でそれぞれ違ったよい所を発見できたので、よい所を見つける力が身についたと思う。 [生徒k] みんなで絵を合わせることによって、いろいろな価値観が生まれることが分かった。

【実践の効果】

「学びに向かう力」育成に向けた本実践の「未来課題」による効果や「主体的に学習に取り組む態度」について、上記の生徒の鑑賞シートや振り返りシート、下表の事後アンケートの記述内容を基に考察する。[n=36]

Q1 「題材」の目標を意識しながら、学習に取り組んでいましたか。⇒肯定的な回答 95%
[生徒l] 作品制作をどのように進めていくか。一人一人、分担しながら進めていくことが将来、仕事とかで計画の進め方や自分の役割をきちんと理解して責任をもってこなすことに生かされると思いました。
Q2 「壁面制作」で学習した内容と今後の将来とを結びつけて、自分の目標を設定することができましたか。⇒肯定的な回答 90%
[生徒m] 伝えたいことをどうやったら相手に伝わるか工夫したり、幸せとは何かを考え、互いに共有しあい互いの意見を尊重したり、認め合うことを学んだ。このことは、これから社会に生かされると考えました。

学習後のアンケート結果から 90%以上の肯定的な回答を得ることができた。特に Q1、Q2の回答から、共同で作品制作の進め方や自分と他者との関係性の構築、互いのよさを尊重し合いながら課題解決に取り組んだことで将来にもつながる記述が見られた。そこで、作品の主題から「何を表したいのか」など、自分の思いを強く抱くことで役割を意識し、自分の考えを他者と共有したことで、互いのよりよい色や形のイメージの組み合わせと表現の工夫することができたと読み取れる。また、授業実践者からは、「幸せとを感じる形や色とは何か」をテーマにした「未来課題」に対し、他者と意見交流する場において、ワークシート、鑑賞シートを活用することで、造形的な視点で作品を捉えたり、創意工夫しながら共同で作品を表すことができた。そして、主体的に自分なりの答えを見つける様子が見られたことはよかったとコメントがあった。今後は、さらに「未来課題」について役割意識を高める指導の工夫により、質の高い創造活動につながることを期待できる。

以上の結果より、「学びに向かう力」の育成に向けた「未来課題」の本実践は有効であったと捉える。